

平成 25 年度 彦根辻番所の会 活動報告 (平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)

彦根辻番所の会 渡邊弘俊

1. はじめに

平成 24 年度の辻番所サロンでは、10 回中 6 回がまちづくり関連の講義となりましたが、その成果は、芹橋まちづくり懇話会に活かされて、平成 26 年 5 月 1 日に、芹橋 2 丁目で 1 本化された自主防災会が設立されました。これに対し、平成 25 年度の辻番所サロンでは、歴史・文化の講義が多く開催されました。

また、辻番所の修復完成に伴い平成 26 年 4 月より、辻番所サロン「芹橋生活」は古巣の「辻番所」を拠点に活動が再開されることになりました。

2. 足軽辻番所サロン「芹橋生活」開催記録

第 39 回 平成 25 年 4 月 21 日 参加人員 23 名

「彦根藩のさまざまな武士」

語り手 青木 俊郎 さん (彦根城博物館 学芸員)

彦根藩における武士について、足軽の身分・地位などの位置づけについて話をされました。

一般的には武士・百姓・町人と大きく分けられるが、武士身分としての「侍」には「侍中」があり、格に分けると、武役席・平士・

小姓・中小姓・騎馬徒(かち) とに分けられる。その下に位置する「徒行」「足軽」「中間」は武士であっても侍ではないなど、給与や知行取り(領地)や足軽の扶持米取り、また、史料に基づいて、日常生活規律についても話があり、興味深いものとなりました。



第 40 回 平成 25 年 5 月 26 日 参加人員 38 名

「彦根城外堀の歴史を振り返る」

語り手 井伊 岳夫 さん (文化財課市史編さん室 副主幹)

彦根城は三重の堀に守られて来ましたが、明治に入り(廃藩)外堀が埋められ、一部が養魚場などに活用されながら、昭和に入り、昭和新道が誕生するなど、外堀の歴史とそれにまつわるエピソードなど、その時代の出来事を語られました。

彦根城築城時の外堀の様子を芹川が付け替えられた当時の古地図を見ながら解説。外堀は明治に入り埋め立てられ、宅地や畑地に変更しつつも一部では養魚場と使用されていた。など今日の昭和道が誕生するまでの歴史を、写真を参考に紹介されました。



第 41 回 平成 25 年 6 月 16 日 参加人員 29 名

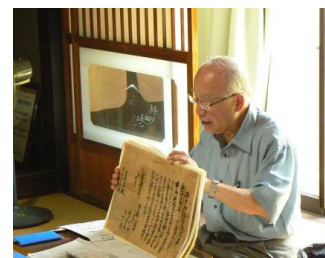
「襖の裏貼りより彦根の歴史を学ぶ」

語り手 青柳 義孝 さん (彦根古文書同好会 会長)

襖の裏貼りより数々の歴史が見えてくる彦根の歴史について話されました。

明性寺文書は平成 10 年、庫裡の襖の裏貼りから発見されたもので(美濃紙百二十枚分)特に注目すべきは、寛永 16 年(1639)西本願寺と興正寺の間に生じた宗義論争が本願寺からの離脱問題と発展し、幕府の介入となり、彦根藩藩主井伊直孝が調停役として収拾方を担当したなど貴重な資料の発見。

長曾根の教禅寺本堂の大襖裏貼りからは、「彦根藩の藩札(米札)」が見つかっています。



その他、①彦根藩のキリスト改めの時の「差上申手形の事」や②願乗寺からは彦根藩九代藩主直禊の御婚礼など数々の史料の紹介がありました。

第42回 平成25年7月28日 参加人員28名

「彦根城を世界遺産に」

語り手 谷口 徹 さん（彦根城世界遺産登録推進室 専門員）

彦根城の世界遺産登録に向けての現状とその歴史について谷口さんに話を聞きました。

登録されるには、どのような経緯を経るのか、そのプロセスや世界での現状（傾向）「評価基準」についても解説されました。

彦根市では平成20年より推進室を設置し本格的に「世界遺産」に向けて取り組んでいます。大名文化を象徴する施設が良好な形で残っており、世界遺産に相応しいとして、①彦根城郭②松原下屋敷③長寿院弁財天堂④彦根藩主井伊家墓所を構成する資産（コアゾーン）で申請することで推進していきます。



【8月・9月 夏休み】

第43回 平成25年10月26日～27日（100余名）

「善利組足軽屋敷一般公開」&「中藪組足軽屋敷瀧谷家公開」

「善利組足軽屋敷公開」

芹橋地区の25年度市指定文化財足軽屋敷の一般公開が開催されました。公開されたのは、本年2月に修復された「吉居家住宅」、修復中の「辻番所・旧磯島家住宅」、1年半ぶりの公開となった「服部家



住宅」、辻番所の会活動記録や足軽の歴史の資料展示会場となった「太田家住宅」「中居家住宅」5棟のほか、外観紹介の「林家住宅」「椿居家住宅」「北川家住宅」が公開されました。

期間中の来場者は2日間で100名を超えました。

「中藪組足軽屋敷瀧谷家公開」

平成23年度に市の指定を受けた「瀧谷家住宅」の公開も行われました。瀧谷家は多くの資料を保有しており、公開に当たり、中藪組足軽屋敷の公開と共に「瀧谷家まちかど資料館」を設立オープンして、瀧谷家伝来の史料も公開しました。



第44回 平成25年11月17日（日） 参加人員28名

「彦根藩普請方の役割と足軽組」

語り手 母利 美和 さん（京都女子大学教授）

彦根藩普請方の「引人」として従事した多くの足軽や足軽組の存在について、①普請奉行以下の普請方の組織と足軽や中間などの下級武士との関係、②業務の実態、③普請方の組織や機能の成立過程の問題について、文化八年～文政七年「諸事日記」、文政七年～十年「官事録」、寛永六年「公用留」の記録の解説・解説整理をされている母利教授の研究成果の一部を善利組足軽の関わる内容で講義していただきました。

組織について、①「普請奉行」～彦根城普請（元和元年・1615年）井伊直孝、彦根城修築にあたって普請定を申し渡す。とした内容など資料に基づいて、また、②普請奉行の「下手代」ちしでの業務。「定例の儀礼」七種祝儀挨拶廻り・殿様城中御見廻り・御足軽衆鉄砲御上覧）など数多くの儀礼が一年を通じてあることなど、普請方・足軽衆の日常の活動・生活がよく解る興味深い話が聞けました。



第45回 平成25年12月15日(日) 参加人員17名
「暮らしの思い出・古写真サロン」

語り手 奥野修さん(住みよいまち&絆研究所 代表)

昭和の暮らしや街並みが思い起こさせる古い写真を参加者が持ち寄り、当時の暮らしの思い出を語り合ったり、町の風景を今に重ね合わせてみることで、新たに町の魅力を再発見する「古写真サロン」が開催されました。



講師に奥野修氏のほか笠原氏・竹岡氏を迎え、参加者17名が3グループに分かれて古写真を囲み、それぞれの写真にまつわる思い出を語り合いました。

参加者が持ち込んだ写真は少なく、講師が用意した、大橋洋氏(父・大橋卯三郎氏が昭和初期に写したもの)の古写真(昭和30年代の松原の回転橋・マルビシビル(えびす講)等)で展開しました。

写真にまつわる思い出の話を発表し合い、今は消えてしまった風景・今もその姿をとどめている街並みを再認識して、大切なものを再発見することで、これからも魅力ある街や風景とは何かを考えていけるヒントになりました。

【1月・冬休み】

第46回 平成25年2月23日(日) 参加人員30名
「戊辰戦争における彦根藩の動向」

語り手 小林隆さん

(彦根市教育委員会文化財課 市史編さん室 室長補佐)



1. 幕末の彦根藩

①役割の変化 ②人材の変化 ③部隊編成

江戸時代から徳川軍団の先鋒を務めてきた井伊家も文久2年頃より井伊家の役割に変化を見せ始める。大老井伊直弼の政治を批判されつつも、直憲が尊王攘夷を表明するが、時代は身分よりも能力主義を重視、足軽からも多くの人材が出る。

2. 戊辰戦争における彦根藩の対応

①戊辰戦争前夜～揺れ動く彦根藩～ ②戊辰戦争～新政府軍の一翼を担った彦根藩～

彦根藩は新政府に帰藩願いを提出しつつも、徳川家にも通じるなど揺れ動く状況の中、明治元年には新政府を担う体制を整えてゆく。

3. 戊辰戦争の戦い

①鳥羽・伏見の戦い ②桑名攻め ③江戸攻め ④北関東の戦い ⑤北東地方の戦い ⑥彦根藩部隊の撤兵 ⑦甲斐・越後根の出兵。 等々について解説されました。

第47回 平成25年3月16日(日) 参加者70名 (延べ約100名)
「辻番所シンポジウム」

「足軽辻番所オープンまでの道のりとこれからへの期待」山崎一眞さん(滋賀大学客員教授)

「彦根市歴史まちづくり計画について」谷口徹さん(彦根市彦根城世界遺産登録推進室専門員)

「辻番所修復事業の概要報告」深谷覚さん(彦根市教育委員会文化財課)

平成19年8月、足軽組屋敷・辻番所(旧磯島家住宅)の売却話が浮上し、保存すべくトラスト運動を展開。その後、彦根市の購入決定を経て、辻番所が市指定文化財に指定され、保存のため「歴史まちづくり計画」に基づき解体修理事業が進められ、3年半を経て完成しました。

当日は、彦根市主催によるテープカットなどオープン式典の後、「辻番所シンポジウム」が開催され、トラスト活動に関わった発起人をはじめ関係者が新しくなった辻番所に集い、今日までの想いを語り合うなど盛会に終始しました。

また、地元自治会も協賛の「屯汁(豚汁)接待」で催しを盛り上げました。



完成した辻番所



オープン式典（市長・地元自治会など）



辻番所シンポジウム



自治会による屯汁（豚汁）接待

3. まちづくり先進地・越前市四町視察研修会

平成 25 年 3 月 25 日（火） 参加者 18 名

芹橋まちづくり懇話会と彦根辻番所の会では、彦根市都市計画課まちなみ保全室の企画で、まちづくり先進地の越前市四町を訪問しました。

四町（元町・本町・平和町・若松町）はタンス町通りを中心に木工技術も持つ職人が住み、伝統的な町家様式の家具店や建具店があり、地域独特の歴史的景観を保っていて、町家・蔵・寺社が多く残されています。

当日は越前市役所で都市計画課と四町まちづくり協議会の皆さんと意見交換を交わし、その後、皆さんの案内で町内を見学して参りました。

四町の町づくりは、地域住民による「紳士協定」から始まり、和紙の産地・「五箇地区」も含めた「地域まちづくり推進団体」の認定を受けてのまちづくりに取り組んでいます。

「五箇地区」は日本一の手漉き技術を誇る和紙産業として発展し、今も重厚な屋敷が多く残り、その周辺の街並みは景観にマッチするように整備されていました。



意見交換会（越前市役所）



蔵のある街・四町



和紙産地の町・五箇地区